



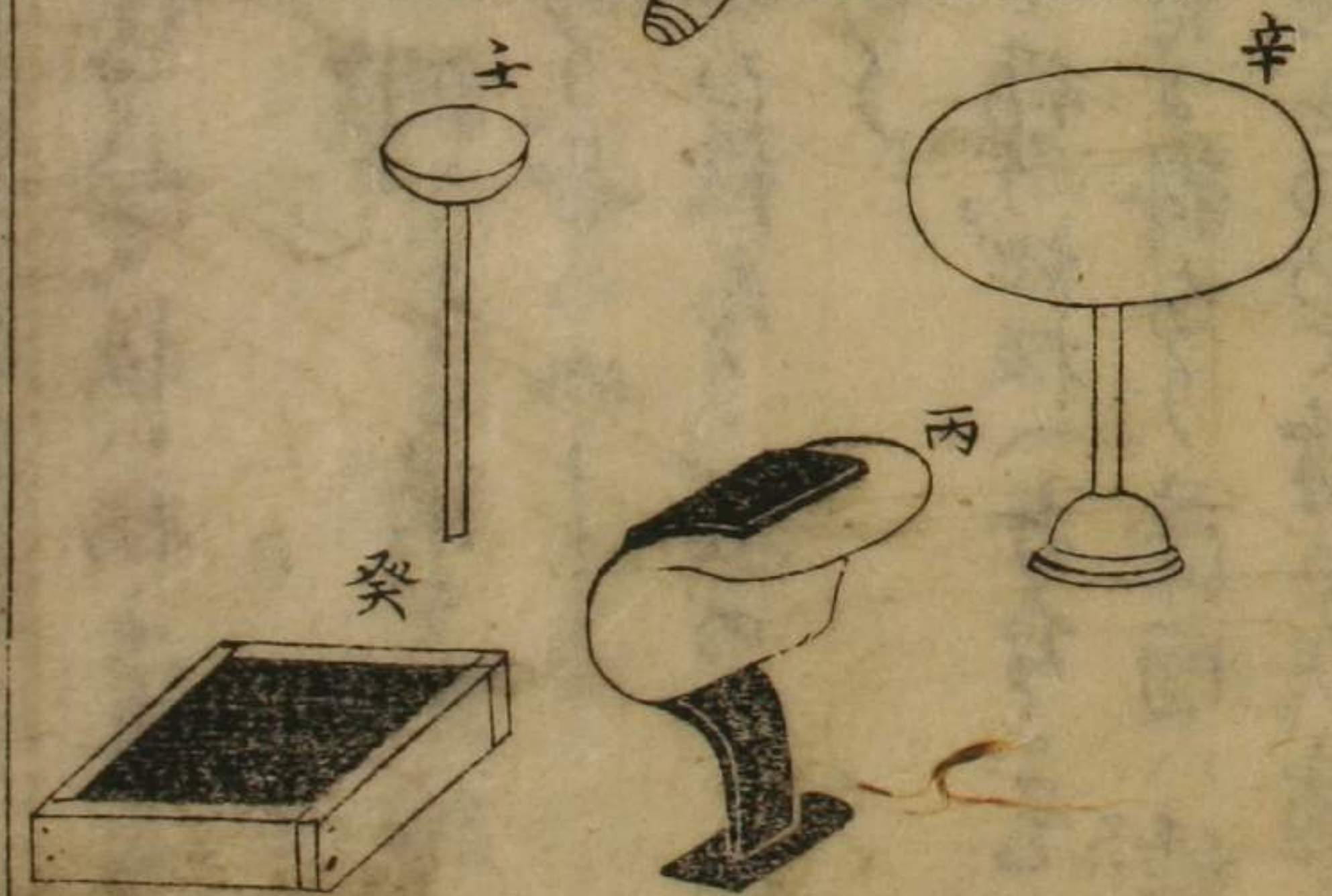
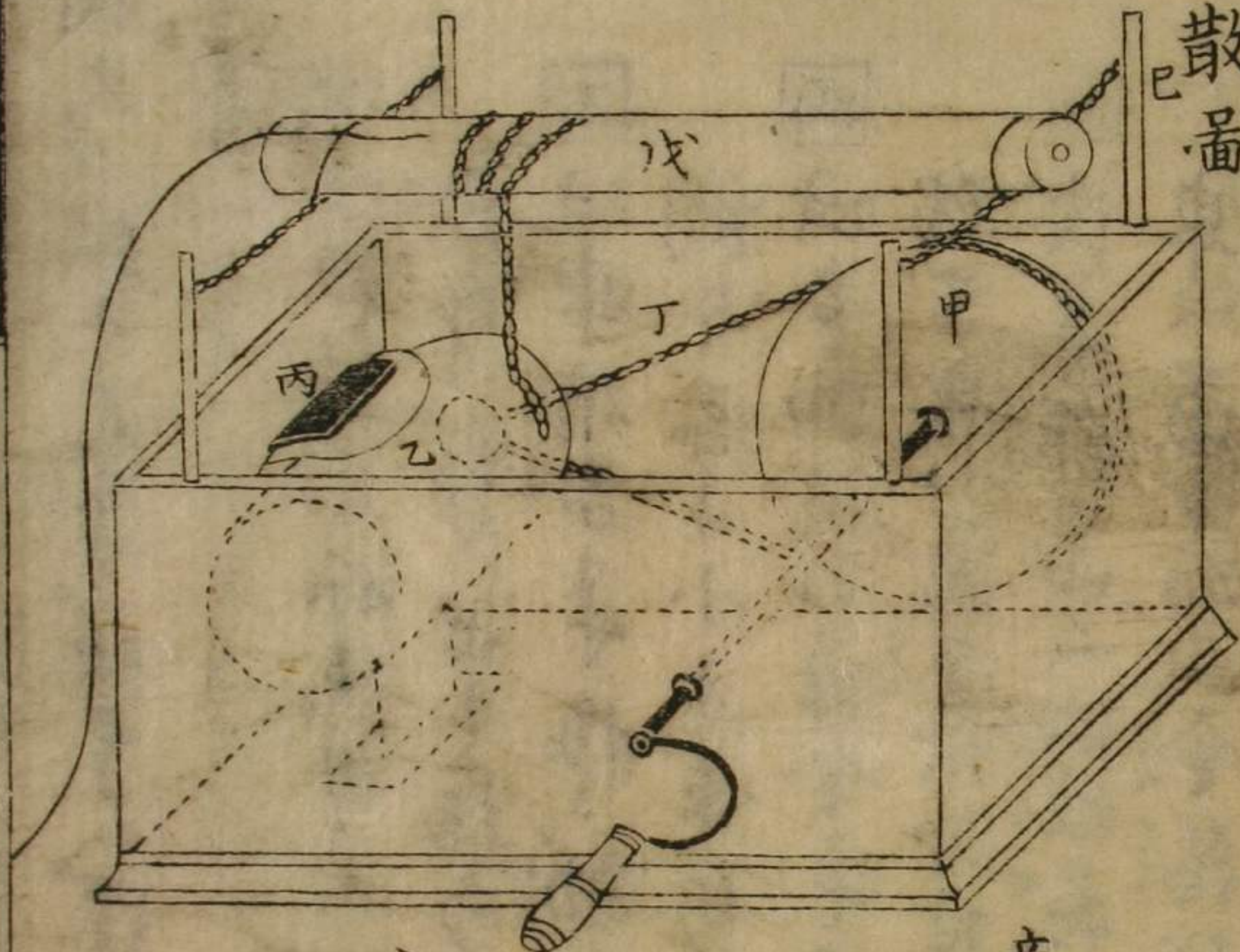
若山山人著



紅毛細工秘傳 全

此書ハ紅毛人の指渡り一エレキテル  
介子水かろくり木の圖式をあつて外  
女悦業二品こゝらへやうを出し古今の秘書也

同散番

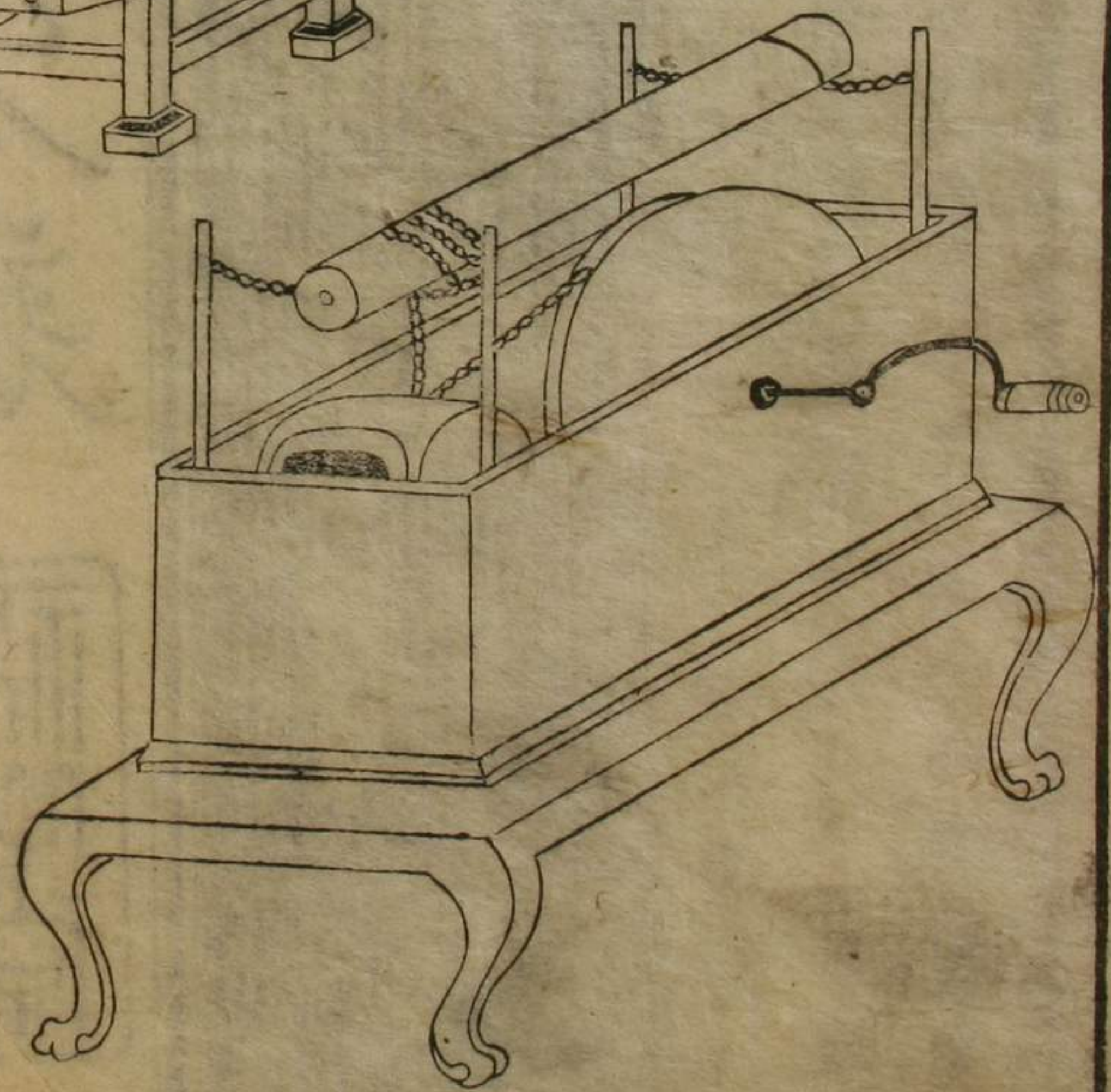
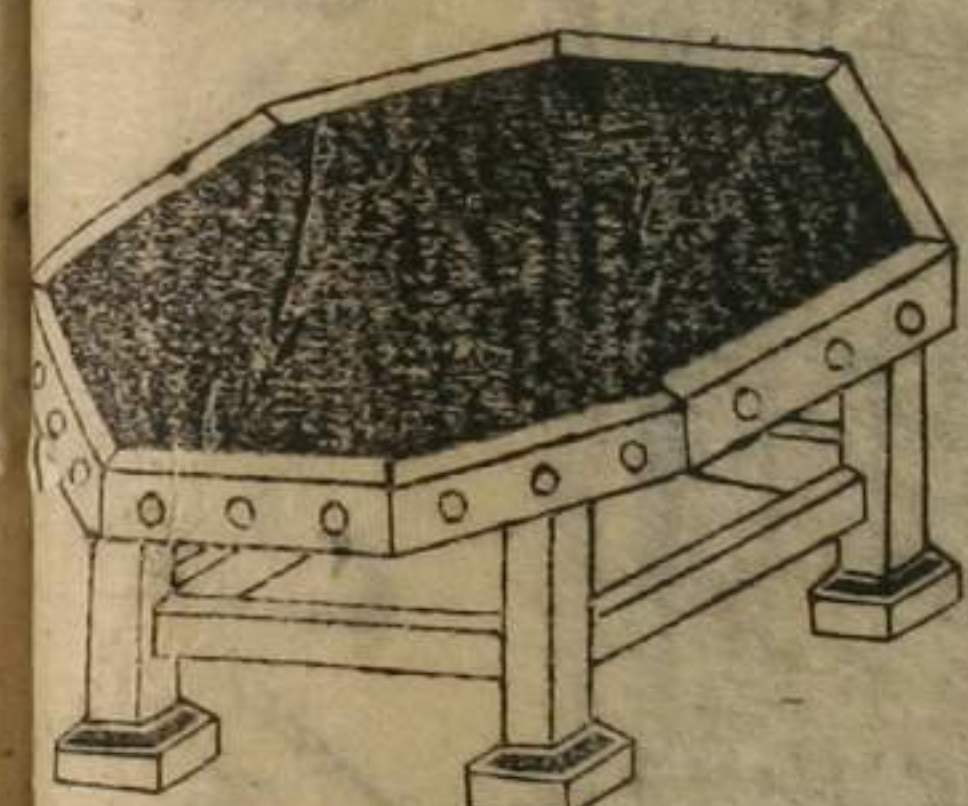


野

的禮

爾幾

之番



箱大サ縦たてき尺五寸。横よこき尺深サ八寸。板ハ何なんも有あり  
まうす。

甲あハ車板くるまいたをて作る。口くち小洞こあなををる。溝いそを彫うけ持もつハ  
鉄てつあり。持もつて口くちを柄えいあり。口くちの如ごとく。

乙おハ車硝子くるまびいろうをて作る。油あぶらハ鉄てつあり。油あぶらの本もとに  
洞あなををる。小こき車くるま何なんも。

丙おハ食物鉄しょくぶつてつの落おつ合あをて作り。地ち板いたへ打うけ付ける。是こハ  
硝子車びいろうくるまへ蒲よもぎ堂どう鉄てつ押おけ付ける料りょうあり。蒲よもぎ圍いハ樟こけい  
皮かわをて作る。中ちゆうハ斑いん枝え花はなをつめて縫ぬい。硝子  
車くるまへ高たかる。所ところ小こ。合あ箱あはら鉄てつ押おけ付ける紙かみを張はく。

丁ていハ洞あな木綿こわた糸いとをて撰えらぶ。

戊ごハ筒つつ去き線せんをて張はく。支しの口くちは指ゆびの形かたちあり。  
穴あなを咽のど。舌しほの如ごとく去き線せんの禿かぶを毛け付けて作り。  
を垂たげて硝子車びいろうくるまへ高たかる。振ふりす。是こより上うへ  
氣きを傳たふ。

己ぎハ板いた去き線せんをて作る。上うに二ふたつの小こ孔あなあり。きぬ  
糸いと鉄てつ通として。其その糸いとへ横よこ筒つつををさみ。舌しほの如ごとく  
糸いとの縁えりををさる。あり。

庚こうハ糸いとハ合あ糸いとあり。横よこ筒つつを摺すりたる糸いとの百ひゃくより  
引ひ出だす。其その糸いとを人ひとに拵こめ。まうす。

辛の符チキの盤ばんへ結むす付けて氣きを傳つたふ。

辛チキは盤ばんま縁えりをて傳つたふ人を産うせしむる床とこの上うへへ

居ゐ。堅かた持もちへ庚かうの符ふの金糸かねいと杖つゑ結むすつけ。さて盤ばんの上うへへ米粒こめつぶ。又また紙かみ代しろ細こ糸いと切きり。またをまかせ。  
壬ニの符ふの持もちを上うへかざせ。琥珀こくわくのちり杖つゑ吸すよりハハをしく吸す上あるなり。

壬ニは持もちま縁えりの層かさね令たまよて傳つたふ。是こゝよて杖つゑ杖つゑさそふあり。

癸ミは基もとハ人を産うせしむる床とこの足あしの下したへ敷ふて地ちの氣きを隔へつ。肉にくへ溶とけ入いるハ猪やありを傷きずく

ある人。床とこの上うへへ手をさすられハ。忽たち地ちの氣きをうつまね。決きして火ひを出ださる。床とこハ定さだまれる式しきあり。此こゝ式しきを令たま得とせ。エレキテ此こゝ杖つゑ作つくる事こと。掌てのひらを指さがめく

あるづ。志こゝろうるといへども。猪や等の虫むしを幸あはれあるハ。さる者ものあり。若もし書かふよつて製つくせんとする人ひと何なにもた。法はぶさたに口くち授たまはる。

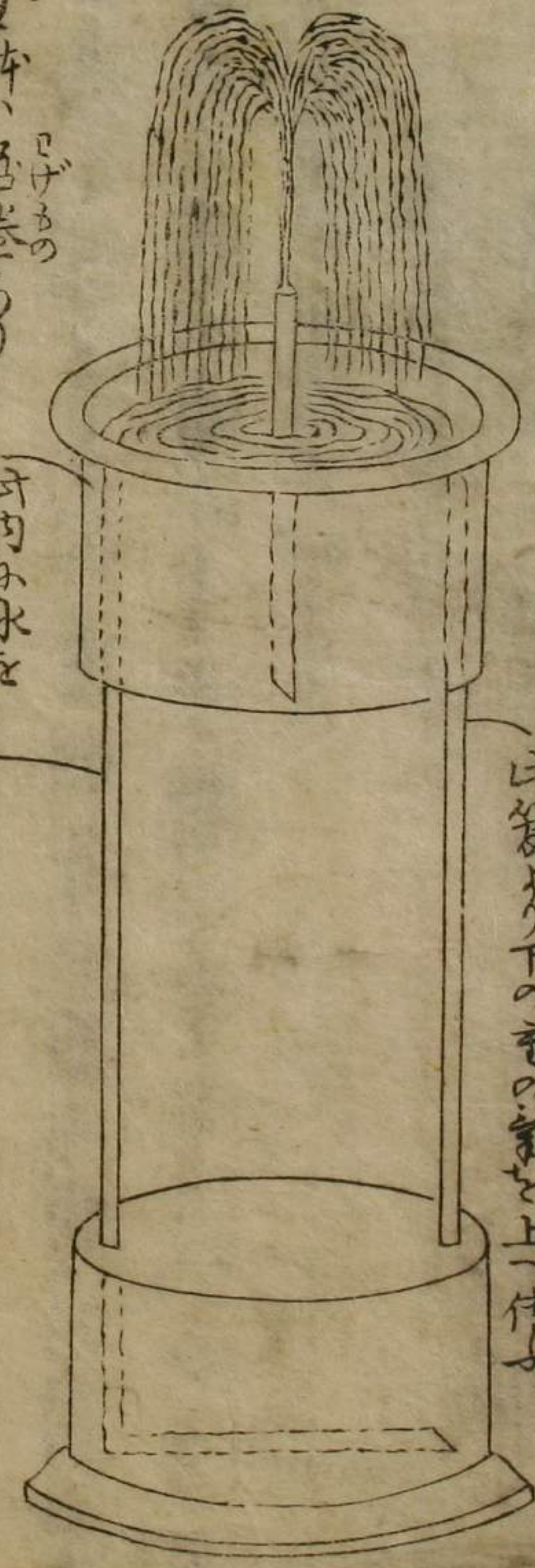
○コンストホニテイシ

上うより落おる水みづを激げして吹ふ上あさするハ。尋もと常とこの水みづ機はたらあり。左ひだりノ号ごうまるる物ものハ。低ひき水みづを上あへ引ひく上うるかゝりあり。亦また名なコニストホニテイシといふ。コニストハ藝術ぎゆつ用もちテイシハ吹ふ水みづ

機関の吹水と  
いふ事あり  
その式ハ号ニ注するが如し

コンストホニテイン之圖

二種

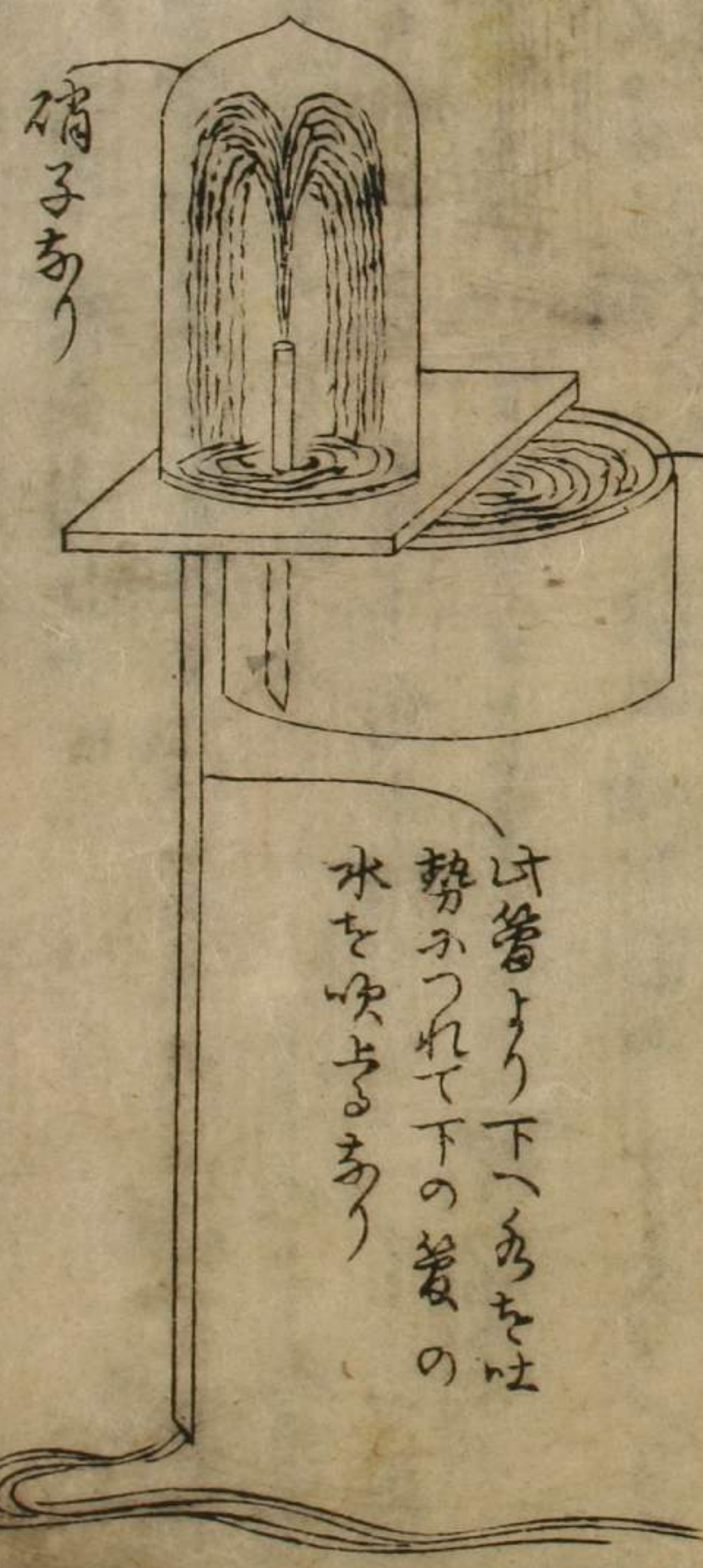


令辨ハ括弧あり  
際ゆりホま  
柱吹筒上ハ程  
令マテ制表  
ガ

ハ内ホ水  
をたくり

ハ管より勢ハたゞゆるきを  
吐勢より下の空の内ホこもり  
たる氣を上へ押上テ水を吹上  
さするあり

ハ管より下の空の管を上へ傳ふ



硝子あり

ハ内ホ水をたくり

ハ管より下へ水を吐  
勢ハつれて下の管の  
水を吹上るあり

○女悦長契香

一名 だらり香

唐人傳方

交合せんとおもふ小す時まは香ふ火を糖えト枕まくらの  
和わりふたてやうまうかじふべーいほどつーみふうま  
女までもかあうげ 蒼陰面そういんめんをあうるべー一交  
おしそおもひ一生いっせいすまう事ことなう妙まことなり

右せん香せんかう方

沉香せんこう

白檀びやくだん

肉桂にくけい

蛤蚧かいかい

狗骨灰くわうこつがい

け又味を粉こなやそふのりのりそそ  
初はつりほそきちけみつけり  
かめ用もちふべーづのめー



○阿蘭陀蠟丸方

一名 床海とこうみといふ

け菜さい角かくひ拵しよ一俵いつたうおとあひ中ちゆうまみほさまほさとてよくとき  
いんきいんきやうやうまつけまつけややととおこあひあひててす  
男おとこいんきいんきやうやうふとくああととわわして女めよろよろここぶぶや  
甚妙しんせうなり 右菜方五味さいほうごみなり

阿へん さいあん

肉けい 丁子

阿せん菜 同方どうほうきき分ぶん事こと

右の菜粉さいこなおしそよしそよの  
みつみつを初はつり角かくひひべー

け四品 同方どうほうききトトワ





